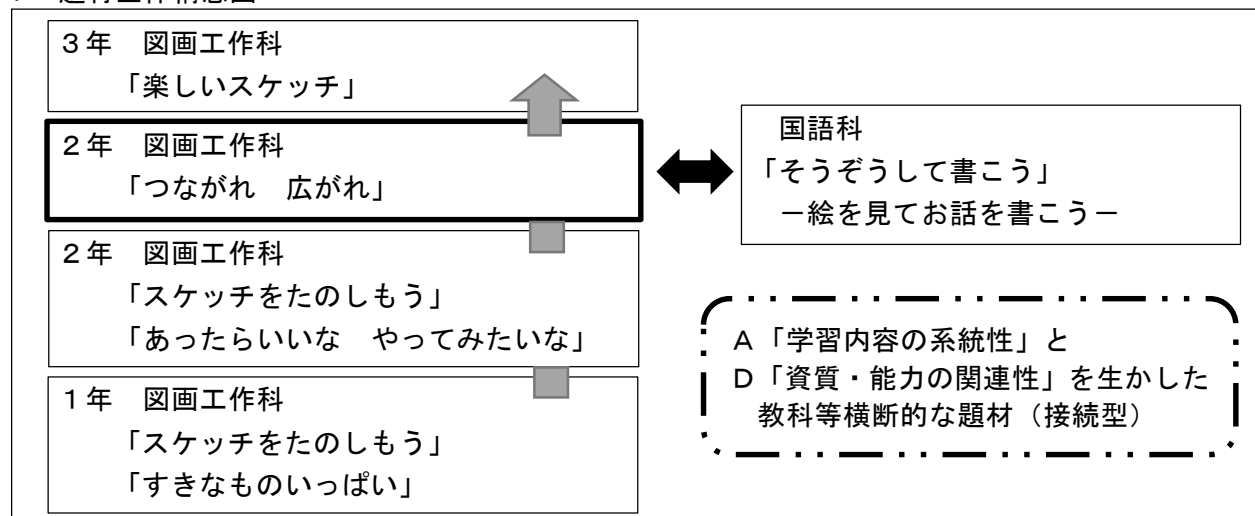


第2学年花組 図画工作科（+国語科）  
「つながれ 広がれ」

指導者 是澤 雅代

1 題材全体構想図



2 題材構想について

本題材は、A「学習内容の系統性」とD「資質・能力の関連性」を生かし構想した。ここで言う「学習内容」とは「絵に表す活動」のことであり、「資質・能力」は「そうぞうする力」である。

本学級は、既成の概念にとらわれることなく、見付けたことや感じたこと、想像したことから自由に発想や構想を繰り返し、思いのままに表現することを楽しむことができる子どもが多い。しかし、自分のよさや可能性を信じきれずに表現方法が偏ったり、ある程度作品が完成すると想像の広がりを停滞させてしまったりするなど、「そうぞうする力」を発揮できていないような姿も見られる。

そこで、子どもが「そうぞうする力」を十分に発揮することができるように、本題材では、想像した物語を一枚の絵で表現するだけでなく、想像が広がっていくのに合わせて、二枚、三枚と絵に描きながら、つなぎ合わせることを繰り返す活動を行う。そうすることで、子どもは、自由に発想や構想を繰り返しながら、想像を豊かに広げて絵を描いたり物語をつなげたりし、楽しさや喜びを常に感じて活動することができるであろう。そして、その楽しさや喜びの感覚は、子どもの日常的に絵を描くという習慣や次学年の絵に表す活動へとつながっていくのではないだろうか。

物語を絵に描く際には、子どもが表現したいイメージにより近付けることができるように描画材を自由に選択できるようにする。描画材を選びながら、その特徴を生かして絵を描くことで、子どもが表現への思いを一層膨らませることができると思う。つなぎ合わせる道具は、マスキングテープを用意する。一度貼っても剥がすことができる特徴は、想像した物語の展開に合わせてつなげる場所を変化させることができ、子どもが表し方を工夫し更新し続けることができる。

また、子どもはつなぎ合わせる枚数が増えるにつれ、友達と交流し合ったり、想像した物語を語り合ったりするであろう。友達とかかわる中で、新たな表現方法に気付いて自分の表現に生かしたり、絵がつながることで物語の想像がより広がったりしていくと考える。そこで、教室環境を工夫し変化させながら、子ども同士が自然と交流し合い、絵をつなぎ合わせるようにしていきたい。

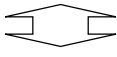
そして、絵を描きながら想像した物語を、国語科「絵を見てお話を書こう」では、文章として書いていく。本題材で、「そうぞうする力」を十分に発揮できた子どもは、物語を文章に表す活動においても、更に「そうぞうする力」を発揮し、〈自己効力感〉を高めることができると思う。

さらに、子ども同士で物語を語り合いながら完成した絵を鑑賞する場を設ける。子どもは、自分の活動を振り返り、そのよさを実感するだけでなく、友達との対話の中で自分では気付かなかったよさを知り、より満足感を得ることができる。また、互いの表現のよさを伝え合ったり、友達とつながった作品の面白さを語り合ったりする中で、友達と活動する楽しさをも実感することができるであろう。

### 3 題材のねらい

- 物語を想像しながら、絵で表現していくことを楽しもうとする。
- 想像した物語をどんな絵にしようか豊かにイメージを膨らませたり、物語の展開に合う紙のつなぎ方を考えたりする。
- 想像した物語のイメージに合わせて、描画材を効果的に選択し、工夫して表現する。
- 活動を振り返りながら、自分や友達の表現のよさや面白さに気付く。

### 4 題材の指導計画（全6時間）

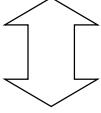
| 場面               | 子どもの課題意識と主な学習活動  | 評価の規準   | 時間                 |
|------------------|--|---|--------------------|
| 出<br>合<br>い      | <p>自分だけのキャラクターを考えて描こう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ キャラクターの性格や特徴などを楽しく想像しながら、自分だけのキャラクターを描く。</li> <li>○ 自分の考えたキャラクターだけでなく、そのキャラクターのいる場面の様子なども想像して描く。</li> </ul>  | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分だけのキャラクターを描きながら、これからの活動へ期待感が高まっている。</li> </ul>   | 1                  |
| 追<br>究           | <p>想像したお話を絵で表し、つなぎ合わせていこう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 物語を楽しく想像し、意欲的に絵に表していく。</li> <li>○ 想像したお話を絵に表し、できた物語の展開に合わせて紙のつなぎ方などを考える。</li> <li>○ 想像した物語を絵に表すのに、イメージに合う描画材を効果的に選択し工夫して表現する。</li> </ul>  <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 友達とのかかわりを通して、友達の表現のよさや面白さに気付いたり、自分の想像を広げたりする。</li> </ul> | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自分の想像した物語のイメージに合った描画材を選んだり、紙のつなぎ方を工夫したりして表現している。</li> <li>● 友達の表現のよさや面白さを知り、表現のよさを取り入れたり、物語をつなげたりしながら、豊かに想像を広げ、新たに思い付いた物語を意欲的に絵にしている。</li> </ul> | 4<br>本<br>時<br>その3 |
| 振<br>り<br>返<br>り | <p>絵をたどりながら、お話を伝え合おう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○ 自分や友達の作品を見詰め、互いの表現のよさや面白さに気付く、交流し合う。</li> </ul>   | <ul style="list-style-type: none"> <li>● 自他の表現のよさや面白さに気付く、それらについて、認め合い、伝え合っている。</li> </ul>  | 1                  |

### 5 題材における指導と評価の工夫

| 場面               | 三つの場面ごとの指導と評価の工夫  |
|------------------|---|
| 出<br>合<br>い      | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 自分だけのキャラクターの性格や特徴を自由に想像させながら絵に描かせたり、どんな物語が続いていくのか楽しく友達と交流させたりすることで、これからの活動への意欲を高める。</li> <li>・ 自分が描いたキャラクターから楽しく想像を膨らませて、どんな物語が生まれ続いていくのかなど、これからの活動に見通しや意欲を持っているか、子どもの言動など姿を観察し評価する。</li> <li>・ 活動記録表を書かせることで、授業中に表出されなかった子どもの思いを把握し、子どもの思いに寄り添った指導に生かす。</li> </ul>  |
| 追<br>究           | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 描画材を自由に選択できるようにしたり、友達とかかわり合うことができるような教室環境を工夫したりすることで、子どもが想像した物語のイメージに合った表現をすることができるようにする。</li> <li>・ 物語の展開に合わせてつなぎ方を工夫したり、友達とかかわりの中で友達の物語の絵とつなげたりできるように指導言を工夫し、更に想像を広げて意欲的に物語の絵を描くことができるようにする。</li> <li>・ 各時間の活動を振り返り活動記録表を書かせ、授業中に表出されなかった子どもの思いを知り、個々の実態や課題を把握することで子どもの思いに寄り添った指導に生かす。</li> <li>・ 活動中の子どもの様態や発言、表現を見取ったり、思いを聞き取ったりし、指導言や評価に生かす。</li> </ul> |
| 振<br>り<br>返<br>り | <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 想像を広げて描いた絵を見詰めながら、国語科「絵を見てお話を書こう」で想像した物語を文章として書くことで、子どもが「そうぞうする力」を更に発揮することができ、〈自己効力感〉を高めることができるようにする。</li> <li>・ 各時間の活動記録表をまとめさせて、自分の活動の頑張りやよさを実感することで、今後のそうぞうする活動への意欲を高める。</li> <li>・ 自他の表現のよさや面白さを見付けたり認め合ったりし、意欲的に伝え合うことができているかなど鑑賞し合う姿を見取り、評価する。</li> </ul>  |

6 本時の授業（4／6）

- (1) 日時 平成31年2月1日（金）9:30～10:15
- (2) 場所 2年花組教室
- (3) ねらい 想像した物語を自分のイメージに合う描画材を選択して絵に表し、工夫してつなぎ合わせる。
- (4) 準備物 画用紙、描画材、マスキングテープ 等
- (5) 展開

| 学習活動   | 予想される子どもの意識の流れ   | 指導（○）評価（●）   |
|--|--|--|
| <p>1 本時の活動を確認する。</p>   | <p>今日は、どんなお話がつながっていきそうかな？</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 私のキャラクターは、気球に乗って、空を旅するお話なんだ。上に紙をつなげていってみようかな。</li> <li>・ ぼくは、電車のキャラクターだから、線路を伸ばしているんな駅に行くお話の絵を描くよ。</li> <li>・ 前の時間に友達が面白い紙のつなげ方をしていたんだ。私も紙のつなげ方を変えてみようかな。</li> <li>・ みんなは、どんなお話ができているのかな。今日の活動が楽しみだな。</li> </ul>  | <p>○ 前時までの活動を振り返り、自分の活動に見通しを持ったり、友達の表現のよさに気付いたりすることができるようにする。</p>  |
| <p>2 想像した物語を絵で表したり、絵をつなげたりする。</p> <div style="text-align: center;">  </div> <p>友達と交流する。</p> | <p>想像したお話を絵に表そう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ ロケットが宇宙に出発するお話にするんだ。紙を上につなげて貼っていくよ。</li> <li>・ ○○さんが私と同じ海の中のお話を作っていたんだ。つなげてみたいな！</li> <li>・ ぼくのキャラクターは新幹線に乗って、いろんな町に行くお話だよ。線路がつながっていくように絵を描くんだ。</li> <li>・ 夢の世界に行くお話だから、パステルを使ってぼかしてみたいに色を付けようかな。</li> <li>・ ○○さんが、面白い紙のつなげ方をしていたんだ。真似してみたいな。</li> <li>・ ○○さんをつなげてみたら、新しいお話が思い付いたよ。新しいお話の絵もどんどん描きたいな。</li> </ul> | <p>○ 子どもの思いを聞き取り、共感したり賞揚したりする声掛けをすることで、新たな価値や意味に気付くことができるようにする。</p> <p>● 想像した物語を自分のイメージに合う描画材を選択して絵に表し、工夫してつなぎ合っているか。</p> <p>[発言・様態・活動記録表]</p> <p>○ 子どもが自由に友達と作品を見合ったり、互いの表現について語り合ったりする教室環境をつくることで、自他の表現のよさや面白さに気づき、新たな表現へとつなげられるようにする。</p> |
| <p>3 本時の活動を振り返る。</p>   | <p>自分や友達のいいところを発表しよう。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 色ペンを使うと、自分の想像したお話のイメージに合わせて細かいところも描くことができたよ。いろんな色を使ってみたよ。</li> <li>・ ○○さんをつなげてみたら、面白いお話の想像がどんどん広がったよ。次は、他の友達ともつなげてみたいな。</li> <li>・ 今日の活動がとても楽しかったよ。次の時間も、もっとお話の絵を描いていくよ。</li> </ul>   | <p>○ 活動記録表を書かせることで、子どもが本時の活動を振り返りながら自分の活動のよさを実感し、次時の活動への意欲を高めることができるようにする。</p>   |

## 7 評価の具体的な方法

### (1) 子どもの活動中の姿の観察

活動中の子どもの姿や表現、活動記録表などから「【力】の高まり」と「【心】の動き」の2つの視点で子どもを見取り、分布図に表す(図1)。2つの視点で個々の実態を把握し、子どもの変容を見ることで、個に応じた指導の手立てを講じることができると思う。

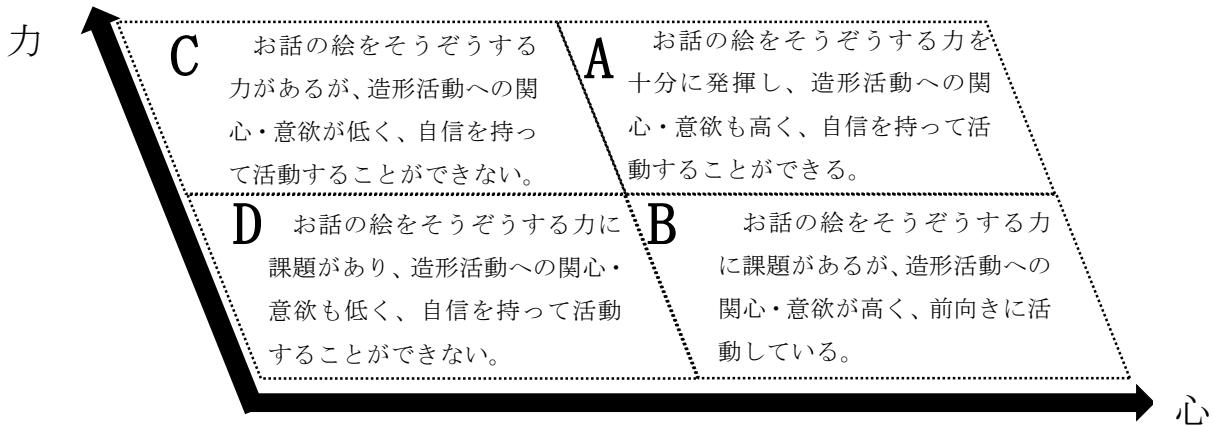


図1 「【力】の高まり」と「【心】の動き」の2つの視点での子どもの見取り

### (2) 活動記録表の活用

授業後に、毎時間ごとの活動を振り返り、活動記録表(図2)を書かせる。活動記録表の子どもの記述から、授業中の子どもを観察することだけでは、気付かなかった一人一人の活動への思いを知ることができ、個に寄り添った指導や評価をすることができる。また、記述だけでなく記号の5段階で振り返りもさせる。低学年の子どもは、自分の活動や考えを的確に記述することが難しい児童もいる。観点を設けて、振り返りをさせることで、子どもは各時間の自分の活動を客観的に見詰め、振り返ることができるであろう。活動記録表には、授業後の作品の写真も貼り、各時間の活動記録表と比べて見ることができるようにする。そうすることで、本時の自分の活動のよさを知ったり、自分のそうぞうがどのように広がっていったのか視覚的に実感したりすることができる。また、作品が完成した際に題材全体の活動を振り返ったりすることもできると考える。

図2 活動記録表

### (3) 子どもの活動中の姿の観察

完成した子どもの作品を見ることで、どのようにそうぞうし、工夫して表現できたのかを見取る。どのような描画材を効果的に選択したのか、物語の想像がどのように広がっていったのか、想像した物語の展開に合わせてどのように紙をつなげていったのかなど、様々な視点から子どもの作品を見る。また、完成した作品を鑑賞させ、振り返りカードを書かせる。自分や友達の作品のよさや面白さを意欲的に見付け、認め合い、伝え合うことができているのか、鑑賞中の子どもの姿や鑑賞カード、振り返りカードから見取る。